

佛蘭西
法律書
民法

CF2
3
07

東 京 圖 書 館	
新 門	一 四 函
部 一 一	架 一
類	號 九 八 九 四

共 十 六 本



明治辛未仲春刊行

大博士箕作麟祥口譯

辻士革筆受

佛蘭西 法律書 民法

大學南校

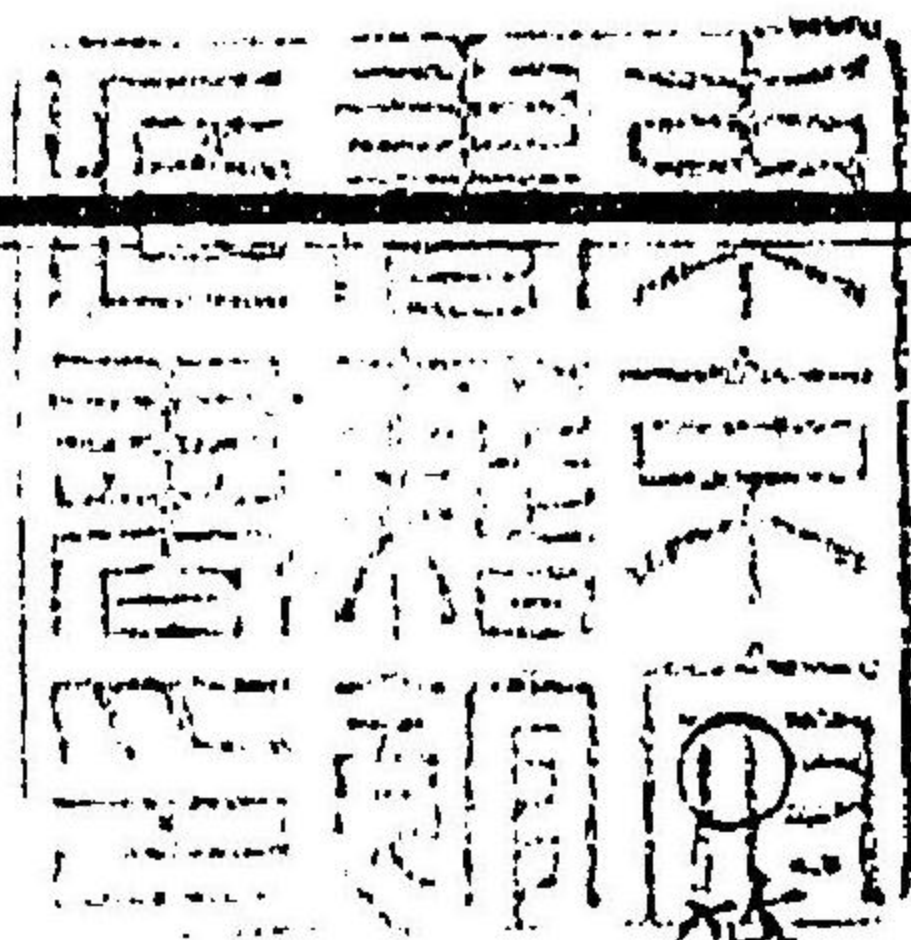
CF2
3
07



佛蘭西法律書 民法第三

中博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付



第八卷 養子ノ事及ヒテ「テ」ル、ヲヒシユ

ズ自カラ好テ他人ノ子ヲ假ノ事平八

百三年第三月二十三日決定第四月二

日布告

○第一章 養子ノ事

○第一款 養子ヲ為ス事及ヒ養子ヲ

佛蘭西

第篇第八卷第一章第一款

一

明治辛未仲春刊行

大博士其作麟祥口譯

辻士華筆

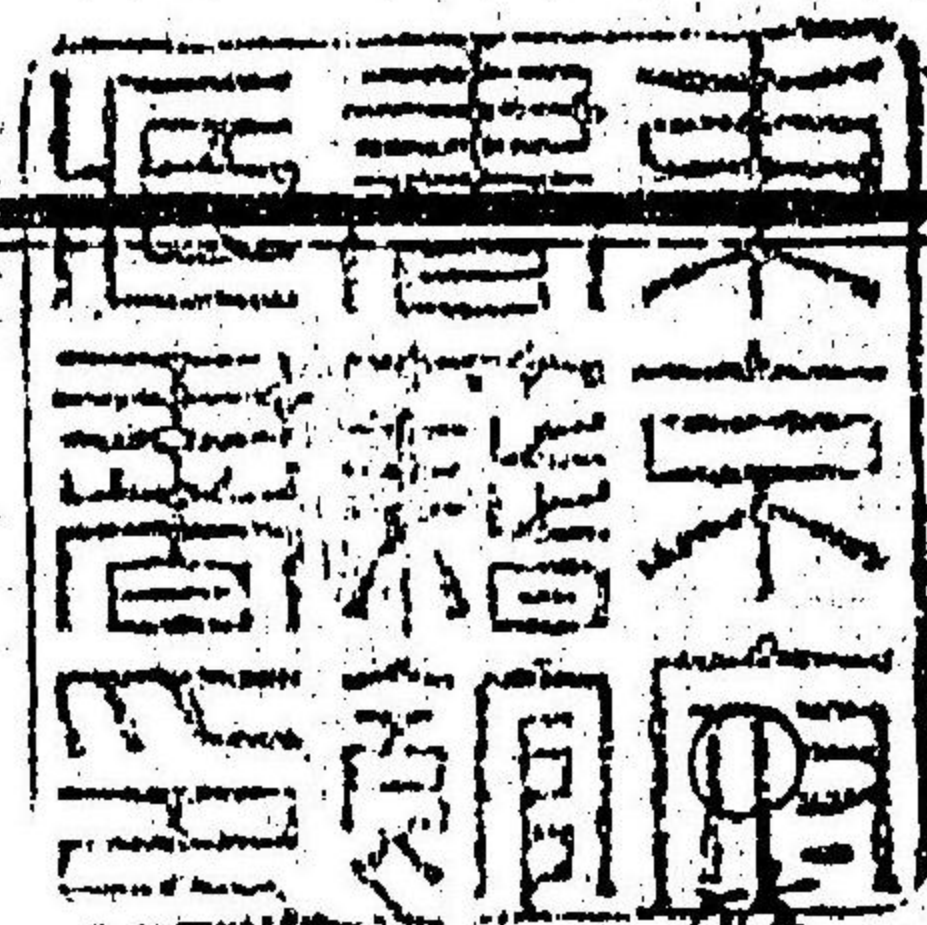
仙蘭西

法律書

民法

大學南校

CF2
3
07



佛蘭西民法第三

中博士其作麟祥口譯

明治九年文部省交付

第八卷

養子ノ事及ヒ「テ」ルヲヒシ

不_レ自カラ好テ他人ノ子ヲ假_レノ事。不_レハ

百三年第三月二十三日決定第四月二

日布告

○第一章 養子ノ事

○第一款 養子ヲ為ス事及ヒ養子ヲ

佛蘭西

第篇第八卷第二章第一款

一

為ス事ヨリ生スル諸件

第三百四十三條 男女ヲ問ハス其齡五十歳以上ニシテ子又ハ嫡出ノ卑屬ノ親ナク且養子トナル可キ者ヨリ十五歳以上ノ年長ナル者ニ非レハ養子ヲ為スヲ得ス

第三百四十四條 一人ニシテ親トナル可キ夫婦ノ外二人以上ノ養子トナル可カラス

第三百六十六條ニ記シタル場合ノ外夫又ハ婦ハ其配偶者ノ承諾ヲ得ルニ非レバ養子ヲ為スヲ得ス

第三百四十五條 養子トナル可キ者ハ幼年ノ時六年以上ノ時間絶ヘズ養親トナル可キ者ヨリ資助照管ヲ受ケ又ハ戦闘及ヒ水火ノ厄災ノ時養親トナル可キ者ノ性命ヲ救ヒシ事アルヲ必要トス但シ戦闘及ヒ水火ノ厄災ノ時養親トナル可キ者ノ性命ヲ救ヒシ者ヲ養子ト為スニハ養親トナル可キ者丁年ニシテ子及ヒ嫡出ノ卑屬ノ親ナク且養子ト為ル可キ者ヨリ高年ニシテ配偶者アル時ハ其配偶者其養子ヲ為スヲ承諾シタルヲ以テ足レ

リトス

第三百四十六條、何レノ場合ニ於テモ養子トナル可キ者未タ丁年ニ至ラサル時ハ養子トナルコトヲ得ス。○若シ養子トナル可キ者ノ父母共ニ生存シ又ハ父母ノ中一人生存シテ己レノ齡未タ滿二十五歳ニ至ラサル時ハ其者ヨリ其父母又ハ父母中ノ生存スル者ニ養子トナル可キコトノ許諾ヲ乞フ可シ又二十五歳以上ノ者ナル時ハ父母ノ誨諭ヲ得可キコトヲ求ム可シ

第三百四十七條、養子トナリタル者ハ己ノ姓ニ養親ノ姓ヲ帶用ス可シ

第三百四十八條、養子トナリタル者ハ猶其實家ノ指揮ヲ受ケ且實家ニ於ケル諸般ノ權利ヲ保ツ可シ但シ左ノ者等ハ互ニ婚姻ヲ結ブコトヲ禁ス

養親ト養子トノ間及ヒ養親ト養子ノ卑屬ノ親トノ間並ニ養子ト養親ノ卑屬ノ親トノ間養子トナリシ者等ノ間

養子ト養親ノ養子ヲ為シタル後産ニタル子トノ間

養子ト養親ノ配偶者トノ間及ヒ養親ト養子ノ配偶者トノ間

第三百四十九條 法律ニ定メタル場合ニ於テ子タル者其父母ニ養料ヲ給ス可ク又父母ヨリ其子ニ養料ヲ給ス可キ天成ノ義務ハ養親ト養子トノ間ニ於テモ亦互ニ之ヲ行フ可シトス

第三百五十條 養子ハ養親ノ親族ノ遺物相續

ヲ為スノ權ナシ然レ養親ノ遺物相續ヲ為スニ於テハ猶其實子タルト同一ノ權ヲ有ス可ク且養子トナリシ後ニ養親ノ實子ヲ擧ケタル時ト雖レ亦其遺物相續ヲ為スノ故障ナシトス

第三百五十一條 若シ養子ノ嫡出ノ卑属ノ親ナク死去セシ時曾テ養親ヨリ養子ニ與ヘタル物又ハ養子ノ養親ヨリ遺物相續トシテ得タル物其儘現存スル時ハ養親又ハ其卑属ノ親之ヲ取返ス可キノ權アリ但シ此權ト他人

ノ得タル權ト相觸ル、一方ク且ツ養親又ハ其卑屬ノ親此權ヲ行フニ付テハ其取返シタル財産ノ割合ヲ以テ其養子ノ負債ヲ償フ可シ
 前ニ記シタル物件ノ外養子ノ有シタル財産ハ其死去ノ時其實家ノ父母及ヒ親族ニ屬ス可シ又其實家ノ父母及ヒ親族ハ前ニ記シタル物件ニ付テモ養親ノ卑屬ノ親ニ非サル遺物相續人ヨリ先ニ之ヲ得可キノ權アリ

第三百五十二條 若シ養親ノ生存中ニ養子ノ

死去シ其後其養子ノ遺留セシ子及ヒ卑屬ノ親モ亦子孫ナク死去シタル時ハ其養親前條ニ記セシ如ク曾テ養子ニ與ヘタル物件ヲ取返ス可シ然レ此權ハ養親ノ一身ノミニ有スルモノニシテ其遺物相續人ハ卑屬ノ親ト雖レ其權ヲ讓リ受ク可カラス

○第二款 養子ヲ為スノ法式

第三百五十三條 養子ヲ為サントスル者及ヒ養子トナラントスル者ハ相共ニ養子ヲ為サントスル者ノ住所ノ最下等裁判所ノ裁判役

ノ面前ニ至リ雙方互ニ養子ノ事ヲ承諾スル
ノ證書ヲ記ス可シ

第三百五十四條 此證書ノ副本ハ其時ヨリ十
日内ニ先ニ願出タル者ヨリ養子ヲ為ス者ノ
住所ヲ管轄スル下等裁判所ノプロキュウ
アノペリアルニ出シ其裁判所ノ許可ヲ得可
キ求メヲ為ス可シ

第三百五十五條 裁判役ハ會議ノ室ニ集會シ
相當ノ問糺ヲ為シタル後養子ノ事ニ付キ法
律ニテ定メシ規則ニ循ヒシヤ又養子ヲ為シ

トスル者ニ惡名ナギヤヲ取調ブ可シ

第三百五十六條 裁判役ハプロキュウアル
ペリアルノ述フル所ヲ聴キ別ニ裁判ノ式ヲ
用ヒス且別ニ其主意ヲ言フヲナク唯養子ヲ
允許ス又ハ養子ヲ允許セスト言渡ス可シ

第三百五十七條 下等裁判所ノ言渡ヨリ一月
内ニ先ニ訴出タル者ヨリ其言渡書ヲ上等裁
判所ニ出ス可シ但シ上等裁判所ニ於テハ下
等裁判所ト同一ノ方法ヲ以テ裁判ヲ為シ其
趣意ヲ言フヲナク唯下等裁判所ノ言渡ヲ可

ト。ス。又。ハ。下。等。裁。判。所。ノ。言。渡。ヲ。改。ム。ト。言。渡。シ。次。テ。之。レ。ニ。因。リ。養。子。ヲ。允。許。ス。又。ハ。養。子。ヲ。允。許。セ。ス。ト。言。渡。ス。可。シ。

第三百五十八條 上等裁判所ニテ養子ヲ為ス可キトテ允許スル言渡ハ衆人ノ面前ニ於テ之ヲ為シ裁判所ニテ相當ト思量スル場所ニ其言渡書ノ寫ノ相當ノ數ヲ貼附ス可シ

第三百五十九條 其言渡ノ時ヨリ三月内ニ養子トナリタル者又ハ養子ヲ為シタル者ノ願ニテ養子ヲ為シタル者ノ住所ノ民生ノ證書

ノ簿冊ニ養子ノ事ヲ記載ス可シ
此記載ヲ為スニハ上等裁判所ノ言渡書ノ法ニ適シタル寫ヲ點視スルヲ必要トス但シ三月ノ定期内ニ其記載ヲ願フコトナキ時ハ養子ノ事ヲ允許シタル言渡ヲ取消ス可シ

第三百六十條 若シ養子ヲ為サントスル者養子ノ契約ヲ為ス可キノ意ヲ表シタル證書ヲ取テ下等裁判所ノ裁判役ノ面前ニテ記ルシ之ヲ決定ノ言渡ヲ為サル前養子ヲ為サントス

スル者死去シタル時ハ猶其事ノ審判ヲ為シ
 允許ス可キノ道理アル時ハ之ヲ允許ス可シ
 若シ養子ヲ為サントスル者ノ遺物相續人等
 養子ヲ為ス可キヲ許ス可カラスト思量ス
 ル時ハ「プロキリウル、アンペリアル」ニ其養子
 ヲ為ス事ヲ拒止スルノ書類ヲ渡シ且其意ヲ
 述ルトヲ得可シ

○第二章 「チュテール、ヲビシユウズ」ノ事

第三百六十一條 五十歳以上ニシテ子及ヒ嫡
 出ノ卑屬ノ親ナキ者幼者ヲ法律上ノ名義ニ

テ己ニ依附セシメント欲スル時ハ其幼者ノ
 父母又ハ父母中ノ生存スル者或ハ父母共ニ
 ナキ時ハ其親族ノ會議又ハ其幼者ニ分明ナ
 ル親族アラサル時ハ其幼者ノ住スル孤院ノ
 支配人又ハ其住地ノ官吏ノ許諾ヲ得テ其子
 ノ「チュトウル」ヲビシユウ「自カラ好テ人ノ子ヲ養
 トナル」ヲ得可シ

第三百六十二條 夫又ハ婦ハ其配偶者ノ承諾
 ヲ得スシテ「チュトウル」ヲビシユウトナルヲ得
 ス

第三百六十三條 幼者ノ住所ノ最下等裁判所ノ裁判役ハ「チュテール」ヲヒシユウズニ管シタル請求及ヒ承諾等ヲ調書ニ記ス可シ

第三百六十四條 「チュテール」ヲヒシユウズヲ受クル者ハ十五歳以下ノ幼者ニ限ル可シ此「チュテール」ヲヒシユウズヲ為ス時ハ其幼者ノ養育ヲ為シ且生計ヲ為スノ道ヲ得セシムル「當然」ナリトス但シ此規則ト別段ノ契約ト相觸ルハ「ナカル」可シ

第三百六十五條 其幼者財産ヲ所有シ且以前

後見ヲ受ケシ者タル時ハ其財産支配ノ事及ヒ其身ヲ指揮スルノ權ヲ其「チュトウル」ヲヒシユウニ移ス可シ然レ此「チュトウル」ヲヒシユウハ其幼者ヲ養育スルノ費用ヲ其幼者ノ入額中ヨリ用フ可カラス

第三百六十六條 若シ「チュトウル」ヲヒシユウ幼者ヲ養育シ始メタル時ヨリ全周五年ノ後ニ至リ其幼者ノ未タ丁年ニ至ラサル中自カラ死ス可キ「先」ヲ先知シ遺囑書ヲ以テ其幼者ヲ養子ト為サントスル時其「チュトウル」ヲヒシユウニ

嫡出ノ子ナキニ於テハ其遺囑書ニ循ヒ之ヲ
養子ト為スヲ得可シ

第三百六十七條 養育シ始メタル時ヨリ五年ニ至ルト至ラザ
ルトヲ問ハス其幼者ヲ養子ト為サントスル
トナク死去セシ時ハ幼者ニ其幼年ノ時間生
計ヲ為ス可キ物件又ハ金額ノ與フ可シ但シ
其與フ可キ金額又ハ財産ノ種類ニ付キ曾テ
契約ヲ為シ定メシトナキ時ハ其死者ノ代人
ト其幼者ノ代人ト孰議シテ之ヲ定ム可シ若

シ孰議セスシテ訴訟ヲ為シタル時ハ裁判所
ヨリ之ヲ定ム可シ

第三百六十八條 幼者ノ丁年ニ至リシ時其
トウルヲヒシユ之ヲ養子ト為サント欲シ其
幼者承諾シタル時ハ前章ニ定メタル法式ニ
循ヒ之ヲ養子ト為ス可シ但シ養子ト為シタ
ル事ヨリ生ス可キ諸件モ亦前章ニ記スル所
ト同一ナリトス

第三百六十九條 幼者丁年ニ至リシ時ヨリ三
月内ニ養子トナル可キトヲテトウルヲヒシユ

ウニ求メタルト雖其求ムル所ヲ得ルトナ
 ク且其幼者生計ヲ為ス可キノ道ナキ時ハ其
 子トウルヲヒシユウ其幼者ニ生計ノ道ヲ得セ
 シムルト能ハサルニ因リ幼者ニ償ヲ為ス可
 キノ言渡ヲ受ク可シ
 其償ハ幼者ヲシテ生計ヲ得セシムルニ足ル
 可キ資助ヲ與フルニアリトス但シ此償ト曾
 テ如此場合ヲ先知シテ為シタル所ノ契約ト
 相觸ル、トナカル可シ

第三百七十條 幼者ノ財産ヲ支配スルノ權ヲ

有シタルヲテトウルヲヒシユウハ常ニ其使費ヲ
 算計ス可シ

○第九卷 親ノ權 千八百三年第三月二十

四日決定第四月三日布告

第三百七十一條 子タル者ハ其年次ヲ問ハ
父母ヲ尊敬ス可シ

第三百七十二條 子ハ丁年ニ至ル迄又ハ後見
ヲ免ルニ至ル迄父母ノ權ニ從フ可シ

第三百七十三條 父母ノ婚姻ヲ結フ時間ハ父
ノニ其權ヲ行フ可シ

第三百七十四條 子ハ滿十八歳ニ至ルノ後義
勇兵ノ召募ニ加ハル為メ外父ノ許可ヲ得

スシテ其親ノ家ヲ去ル可カラス

第三百七十五條 父其子ノ行状ニ付キ至重ナル戾意ノ事アル時ハ其子ヲ懲治スルニ左ノ方法ヲ用フ可シ

第三百七十六條 若シ子ノ未タ十六歳ニ至ラサル時ハ其父一月ニ過ザル時間其子ヲ禁錮セシムルヲ得可シ但シ之ガ為メ下等裁判所ノ上席人ハ父ノ求メニ従ヒ必ス其子ヲ捕捉スル命令書ヲ渡ス可シ

第三百七十七條 十六歳ノ齡ニ至リシ時ヨリ

丁年ニ至リ又ハ後見ヲ免ルニ至ル迄ノ時間ハ父ヨリ其子ヲ六月ニ過サル時間禁錮スルノ願ヲ為スヲ得可シ但シ此事ノ為メ父ヨリ前條ニ記シタル裁判所ノ上席人ニ其願ヲ為シ其上席人ハプロキウルクアンペリアルト商議シタル後其子ヲ捕捉スルノ命令書ヲ渡シ又ハ之ヲ渡ストヲ允許セサルヲ自由ナリトス又其上席人ハ其捕捉ノ命ヲ下シタル時ト雖モ父ヨリ願フタル禁錮ノ期日ヲ減スルヲ得可シ

第三百七十八條 何レノ場合ニ於テモ捕捉ノ命令書ノ外ハ書類及ヒ裁判ノ法式ヲ用フル
 一ナカル可シ但シ捕捉ノ命令書ニハ其捕捉ヲ為スノ緣由ヲ記スル一ナカル可シ
 父ハ其子ヲ禁錮スル時間ノ費用ヲ償ヒ且相當ノ養品ヲ給ス可キ證書ヲ記シ之ニ姓名ヲ手署ス可シ

第三百七十九條 父ハ已レノ定メタル禁錮ノ時間又ハ裁判所ニ願フタル禁錮ノ時間ヲ減スル一ヲ得可シ○若シ其子禁錮ヲ免レシ後

再ヒ不良ノ所行ヲ為ス時ハ前ノ數條ニ記スル所ノ如ク再ヒ禁錮ヲ言渡ス可シ

第三百八十條 父ノ再婚ヲ結ビタル時ハ前婚ノ子十六歳以下ノ齡ト雖モ之ヲ禁錮セシムルニ付キ第三百七十七條ニ記スル所ニ循ル可シ

第三百八十一條 夫ノ死去シテ再婚セザル婦其子ヲ禁錮セシメント為スニハ夫ノ最親ノ親族二員ノ承諾ヲ得且第三百七十七條ニ記スル所ニ循ヒ願出ス一ヲ必要トス

第三百八十二條 子其身ニ属スル財産ヲ所有シ又ハ自カラ職業ヲ行フ時ハ十六歳以下ノ者ト雖凡之ヲ禁錮セシムルニ第三百七十七條ニ記スル所ノ規則ニ循フ可シ

禁錮ヲ受ケシ子ハ上等裁判所ノプロキュリウ
ルゼ子ラルルニ禁錮ノ赦宥ヲ請フノ書ヲ出ス
トヲ得可シ其時プロキュリウルゼ子ラルルハ下
等裁判所ノプロキュリウルアンペリアルヲシ
テ其情實ヲ告ケシメ己ノ説ヲ上等裁判所ノ
上席人ニ告知ス可シ其上席人ハ父ニ其子ノ

禁錮ヲ止メシムルノ意トキヤヲ問糺セシ後
諸般證件ヲ得タル上ニテ下等裁判所ノ上席
人ノ言渡ヲ廢棄シ又ハ更改スルトヲ得可シ

第三百八十三條 第三百七十六條第三百七十
七條第三百七十八條第三百七十九條ニ記ス
ル所ハ法ニ循ヒ私生ヲ嫡出ト為シタル子ノ
父母ニモ亦適當シテ用フ可シ

第三百八十四條 夫婦ノ婚姻ヲ結ビタル間ハ
夫又婚姻ヲ解キタル後ハ夫婦中ノ後ニ生存
スル者ニテ其子ノ滿十八歳ニ至ル迄又ハ十

八歳以下ニテ其子ノ後見ヲ免ル、ニ至ル迄ノ時間其子ノ財産ノ入額ヲ得ルノ權アリ

第三百八十五條 此ノ如ク子ノ財産ノ入額ヲ得ル者ハ左ノ諸件ヲ擔當ス可シ

第一 總テ人ノ財産ノ入額ヲ得ル者ノ為ス可キ義務第六百條以下ニ詳ナリ

第二 子ノ家産ニ準シテ教育ヲ為ス事

第三 子ノ負債ノ餘額ヲ償フ事及ビ負債ノ息銀ヲ償フ事

第四 子ノ最後ノ疾病中ノ費用及ビ埋葬ノ費用ヲ償フ事

第三百八十六條 離婚ヲ受ケタル夫又ハ婦ハ

子ノ財産ノ入額ヲ得可カラス又婦ノ再婚ヲ為タル時モ亦之ヲ得可カラス

第三百八十七條 子ノ父母ニ管係ナク自己ノ職業ニ因リ得タル財産又ハ父母ノ入額ヲ得

可カラサル契約ヲ以テ他人ノ其子ニ附與シ又ハ遺留シタル財産ハ父母其入額ヲ得可カラス

○第十卷 幼年ノ事後見ノ事後見ヲ免ル

、事(千八百三年第三月二十六日決定
第四月五日布告)

○第一章 幼年ノ事

第三百八十八條 男女ヲ論セズ未タ滿二十一

歳ニ至ラザル者ヲ幼者トス

○第二章 後見ノ事

○第一款 父母ノ後見

第三百八十九條 婚姻ヲ結ビタル間ハ夫其幼
年ノ子ノ財産ヲ支配ス可シ

子ノ財産中ニテ父其入額ヲ所得ト為サル物ニ付テハ其入額及ヒ其所有ノ權ヲ其子ニ屬スルモノトシ又父其入額ヲ所得ト為ス可キ物ニ付テハ其所有ノ權ノミヲ其子ニ屬スルモノトス

第三百九十條 夫婦中ニテ死去シ又ハ准死ヲ受ル者アツテ婚姻ヲ解シ後ハ他ノ一方ノ者後見ヲ免レサル幼年ノ子ノ後見ヲ為スノ權アリ

第三百九十一條 然レ父ヨリ後ニ生存ス可キ

母其子ノ後見ヲ為スニ付キ父其輔佐人ヲ任シタル時ハ其母其輔佐人ノ說ヲ得スシテ後見ニ管シタル證書ヲ記ス可カラズ若シ父ヨリ其輔佐人ノ管涉ス可キ證書ノ種類ヲ特定メタル時ハ後見ヲ為ス母其他ノ證書ヲ記スルニ付キ其輔佐人ノ說ヲ得ルニ及ハズ

第三百九十二條 其輔佐人ヲ任スルニハ左ノ二箇ノ方法中ノ一ヲ用フ可シ

第一 遺囑ノ證書ヲ以テ為ス事

第二 書記官立會ノ上取下等裁判所ノ

裁判役ノ面前又ハ「ノ」テ「ル」數人ノ面

前ニ於テ陳述スル事

第三百九十三條 若シ夫ノ死去セシ時其婦臍

胎シタルニ於テハ親族ノ會議ニテ其未タ出

産セザル子ノ「キ」ヲトウルヲ任ス可シ

子ノ出産シタル後ハ其母後見人トナリ「キ」

ト「ル」後見人ノ監察者トナルノ權アリ

第三百九十四條 母ハ必ス後見ノ任ヲ受ルヲ

承諾スルニ及ハス然レ特ニ後見人ヲ撰任セ

セシムルニ至ル迄ハ後見ノ諸務ヲ行フ可シ

第三百九十五條 後見ヲ為ス母再婚セント欲

スル時ハ婚姻ノ證書ヲ記スル前親族ノ會議

ヲ為サシメ其會議ニテ後見ノ職ヲ日後猶其

母ニ任ス可キヤ否ヲ定ム可シ

若シ親族ノ會議ヲ為サシメサル時ハ其母後

見ヲ為スノ權ヲ失フ可シ又再婚ノ夫ハ其婦

不相當ニ後見ヲ行フタルヨリ生セシ諸件ニ

付キ婦ト相連帶シテ責ニ任ス可シ

第三百九十六條 母ヨリ相當ニ親族ノ會議ヲ

為サシノ其會議ニテ日後猶其母ニ後見ヲ為
ス、トヲ任シタル時ハ必ス其再婚ノ夫ヲ其後
見ノ副職ニ任ス可シ但シ其夫ハ婦ノ婚姻ノ
後行フタル後見ノ諸事ニ付キ相連帶シテ責
ニ任ス可シ

○第二款 父母ヨリ任ジタル後見

第三百九十七條 親族タルト否トヲ問ハス後
見人ヲ撰ムノ權ハ父母ノ中後ニ死去スル者
ニ屬ス可シ

第三百九十八條 此權ヲ行フニ付テハ第三百

九十二條ニ記スル所ノ法式ニ循ヒ且此後ニ
記スル所ノ格別ノ規則ヲ守ル可シ

第三百九十九條 母再婚ヲ為シ前婚ノ子ノ後
見ノ任ヲ受ケザル時ハ其母其子ノ後見人ヲ
撰ム可カラス

第四百條 母再婚ヲ為シテ前婚ノ子ノ後見ノ
任ヲ受ケ其死去セントスル時其子ノ後見人
ヲ撰ミタルト雖モ親族會議ニテ之ヲ承諾シ
タルニ非レハ其撰任ヲ確定スルヲ得ス

第四百一條 父又ハ母ヨリ撰任ヲ得タル後見

人ハ必ス其職ニ任スルヲ承諾マルニ及ハ
ス但シ其人父母ヨリ別ニ撰任ヲ得スト雖
親族ノ會議ヨリ其撰任ヲ得可キ者タル時ハ
格別ナリトス

○第三款 尊属ノ親ニテ後見ヲ為ス

事

第四百二條 父母ノ中後ニ死去セシ者ヨリ幼
者ノ後見人ヲ撰ミシトナキ時ハ其幼者ノ本
宗ノ祖父其後見ヲ為スノ權アリ又本宗ノ祖
父ナキ時ハ其外族ノ祖父其後見ヲ為スノ權

アリ又祖父ナキ時ハ曾祖父ニ其權アリトス
但シ同級ノ尊属ノ親ノ中ニ於テハ本宗ノ親
外族ノ親ヨリ先ニ後見人トナルノ權アリ

第四百三條 幼者ノ本宗ノ祖父及ヒ外族ノ祖
父ノ共ニアルトナク本宗ノ曾祖父二人アリ
テ互ニ後見ノ職ヲ争フ時ハ其二人中ニテ幼
者ノ父ノ本宗ノ祖父其後見ノ任ヲ受ク可シ
第四百四條 又外族ノ曾祖父二人ノ間ニ互ニ
後見ヲ争フアル時ハ親族ノ會議ニテ其二
人中ノ一人ヲ後見ノ職ニ任ス可シ

○第四款 親族ノ會議ニテ任シタル
後見

第四百五條 幼年ニシテ未タ後見ヲ免レサル
子父母及ビ父母ヨリ任シタル後見人ナク又
尊屬ノ男ノ親ナク且前ニ記シタル後見人ノ
撰任ヲ受ケタル者後ニ記スル所第四百二十
七條第四百
四十二條ノ如ク後見ノ職ニ任スルヲ能ハス
又ハ後見ノ職ヲ相當ニ辯シタル時ハ親族ノ
會議ニテ其子ノ後見人ヲ任ス可シ

第四百六條 親族ノ會議ハ幼者ノ親族又ハ幼

者ノ債主又ハ其他幼者ニ管係アル者ノ求メ
ニ從ヒ又ハ幼者ノ住所ノ最下等裁判所ノ裁
判役ヨリ其職務ヲ以テ求ムル所ニ從ヒ之ヲ
集會ス可シ○何レノ人ト雖ル後見人ヲ任ス
可キ原由ヲ其裁判役ニ述ルヲ得可シ

第四百七條 親族ノ會議ハ裁判役ヲ除クノ外
幼者ノ住所ノ「ゴム」ニユ一「ン」ノ内又ハ其住所
ヨリ二「ミ」リヤメートルノ距離内ニ在ル血屬
又ハ姻屬ノ親六員ヨリ成ル可シ但シ其六員
ノ中半ハ本宗ノ親ニシテ半ハ外族ノ親タル

可ク且其親族ハ本宗外族共ニ親近ノ順序ニ
從ノ可シ

同級ノ親ニ於テハ血屬ノ親姻屬ノ親ヨリ先
ニ其撰任ヲ受ケ又同級ノ血屬中ニ於テハ高
年ノ親若年ノ親ヨリ先ニ其撰任ヲ受ク可シ

第四百八條 幼者ト父母ヲ同スル兄弟及ヒ姉
妹ノ夫ハ前條ニ記シタル定員ニ循フニ及ハ
ズ但シ此等ノ者ノ數六人以上ナル時ハ幼者
ノ尊屬ノ親ノ寡婦及ヒ後見ノ職ヲ相當ニ辭
シタル尊屬ノ親ト共ニ親族ノ會議ヲ為シ他

ノ親族ヲシテ參セシムルニ及ハズ

若シ其父母ヲ同スル兄弟及ヒ姉妹ノ夫ノ貞六
人ニ充サル時ハ其他ノ親族ヲ以テ其缺ヲ補
ヒ親族ノ會議ヲ為サシム可シ

第四百九條 本宗及ヒ外族ノ血屬又ハ姻屬ノ
親幼者ノ住所ノ地又ハ第四百七條ニ記シタ
ル距離内ニ在ル者ノ數定員ニ充サル時ハ最
下等裁判所ノ裁判役ヨリ更ニ隔遠ノ地ニ居
住スル血屬又ハ姻屬ノ親又ハ幼者ノ住所ノ
コソニウシテ幼者ノ父母ト平生親交シ

タル者ヲ親族會議ニ參セシメ其缺ヲ補ハシム可シ

第四百十條 幼者ノ住所ノ地ニ在ル血屬又ハ姻屬ノ親ノ數定負ニ充ル時ト雖モ最下等裁判所ノ裁判役ハ其血屬又ハ姻屬ノ親ヨリ更ニ近親ノ血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ同級ノ血屬及ヒ姻屬ノ親ノ更ニ隔遠ノ地ニ居住スル者ヲシテ親族會議ニ參セシムルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ幼者ノ住所ノ地ニ在ル親族ニテ親族會議ノ中ニ加ハル可キ者ノ數ヲ

減シ前ニ定メタル親族會議ノ定負ニ過ルヲナカラシム可シ

第四百十一條 親族會議ニ出席ス可キ期限ハ最下等裁判所ノ裁判役之ヲ定ム可シ但シ其會議ニ參ス可キ親族等皆幼者ノ住所ノ「コム」ニウシ内ニ居住シ又ハ二「シリヤメ」トルノ距離内ニ居住スル時ハ呼出書ヲ送達シタル日ト其會議ヲ為サント定メタル日トノ間ニ必ス三日ヨリ少カラサル時間ヲ隔ツ可シ又親族會議ニ參ス可キ者ノ中其距離外ニ居

住スル者アル時ハ三「三」リヤメートル毎ニ一日ヲ増ス可シ

第四百十二條 此ノ如ク招集ヲ受ケタル血属及ヒ姻属ノ親又ハ朋友ハ自カラ會議ニ出席シ又ハ特ニ任シタル名代人ヲ出ス可シ一人ニテ數人ノ名代人トナルヲ得ス

第四百十三條 血属及ヒ姻属ノ親又ハ朋友ノ親族會議ニ出席ス可キ招集ヲ受ケシ者正シキ辨解ノ理ナクシテ出席セサル時ハ最下等裁判所ノ裁判役ヨリ五十「ラ」ンクニ過ザル

罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ其言渡ニ服セスト雖モ更ニ上等裁判所ニ訴出ス可カラズ

第四百十四條 若シ親族會議ヲ為ス可キ定期ニ至リ正シキ辨解ノ理アリテ出席セサル者アル時其者ノ来ルヲ待ツ事又ハ之ニ代テ他人ヲ任スル事ノ至當ナルニ於テハ總テ幼者ノ利益ノ為ニ必要ナル事アル時ノ如ク最下等裁判所ノ裁判役其親族會議ノ集會ヲ日ヲ定メテ延期セシメ又ハ日ヲ定ムルヲナク延期セシムルヲ得可シ

第四百十五條 冢下等裁判所ノ裁判役ヨリ親族會議ヲ為ス可キ場所ヲ別段ニ撰ミサル時ハ當然其裁判役ノ家ニテ其會議ヲ為ス可シ
 ○其會議ニ參ス可キ人負四分ノ三以上出席ヲ為サレハ集會シテ決議ヲ為ス事ヲ得ス
 第四百十六條 其裁判役ハ親族會議ノ上席人ニシテ其會議ニ加ハリ可否ヲ述ルヲ得可ク且議負ノ決議ヲ為ス時可トマル者ノ數ト否トマル者ノ數ト相均シキ時ハ其裁判役ノ說ニ循ヒ之ヲ定ム可シ

第四百十七條 若シ佛蘭西國內ニ居住スル幼者佛蘭西ノ藩屬地ニ財產ヲ所有シ又ハ佛蘭西ノ藩屬地ニ居住マル幼者佛蘭西國內ニ財產ヲ所有スル時ハ此等ノ財產ノ支配ノ為メ特ニ「プロテクトゥル」真ノ後見ノ任ヲ受スル者幼者ノ財產ヲ支配スル者ヲ任ス可シ
 此場合ニ於テハ後見人ト「プロテクトゥル」トハ互ニ相管スルヲナク且一方ノ行ヒシ事ニ付キ他ノ一方ノ者其責ニ任スルヲナシ
 第四百十八條 後見人面ニ後見ノ職務ノ任ヲ

受ケシ時ハ其任ヲ受ケシ日ヨリ其職務ヲ行
フ可シ若シ然ラサル時ハ後見ノ職ヲ任シタ
ル告知アリシ日ヨリ其職務ヲ行フ可シ

第四百十九條 後見ノ職ハ後見人ノ一身ノミ
ニ付キ任スル所ノモノトシ之ヲ其相續人ニ
移ス可カラス○然レ其相續人ハ後見人ノ生
存中ニ行ヒシ諸事ニ付キ其責ニ任ス可ク且
其相續人丁年ナル時ハ新タニ後見人ヲ任ス
ルニ至ル迄ノ時間假ニ後見ノ事務ヲ行フ可
シ

第五款 後見人ノ監察者

第四百二十條 如何ナル後見人アル時ト雖レ
親族會議ニテ其監察者ヲ任ス可シ
其職務ハ後見人ノ利益ト幼者ノ利益ト相觸
ル、トアル時幼者ノ利益ノ為メ其處置ヲ為
スニアリトス

第四百二十一條 此章ノ第一款第二款第三款
ニ記シタル所ノ者後見ノ任ヲ受ケタル時ハ
其職務ヲ行ヒ始ムル前ニ第四款ニ記ルシタ
ル如ク親族會議ヲ為サシメ其監察者ヲ任セ

シム可シ

後見人此法式ニ循ハスシテ其職務ヲ行ヒ始
メシ時ハ幼者ノ親族又ハ幼者ノ債主又ハ其
他幼者ニ管係アル者ノ求ノニ從ヒ又ハ取下
等裁判所ノ裁判役ノ職務ヲ以テ親族會議ヲ
為サシメ若シ其後見人ニ不正ノ意アル時ハ
其會議ニテ後見ノ職ヲ退カシム可シ但シ此
規則ト幼者ニ償フ可キ償額ト相觸ル、トナ
カル可シ

第四百二十二條 前條ニ記シタル以外ノ者後

見ノ職ニ任シタル時ハ之ト同時ニ其監察者
ヲ任ス可シ

第四百二十三條 如何ナル場合ニ於テモ後見
人ハ其監察者ヲ任スルニ辭ヲ參フル一能ハ
ス但シ後見人ノ監察者トナル可キ者ハ幼者
ト父母ヲ同スル兄弟中ヨリ之ヲ撰ミタル時
ノ外本宗及ヒ外族中ニテ後見人ノ所屬ニ非
サル族中ノ者ヲ撰ム可シ

第四百二十四條 後見人ノ監察者ハ後見ノ職
ノ空位トナリ又ハ後見人ノ失踪セシ時其儘

直ニ後見人トナル可キノ權ナシ但シ此場合ニ於テハ其監察者新タニ後見人ヲ任セシム可キ處置ヲ為ス可シ若シ此規則ニ背キテ幼者ノ為メ損害アル時ハ其償ヲ出ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

第四百二十五條 後見人ノ監察者ノ職務ハ後見人ノ職務ト同時ニ終ル可シ

第四百二十六條 此章ノ第六款第七款ノ規則ハ後見人ノ監察者ニモ亦適當シテ用フ可シ然レ後見人ハ其監察者ヲ退任セシムルノ處

置ヲ為ス可カラス又監察者ヲ退任セシムルカ為メ集會シタル親族會議ノ中ニ辭ヲ參フ可カラス

○第六款 後見ノ職ヲ辭シ得可キ原由

第四百二十七條 左ノ數人ハ後見ノ職ヲ辭スルヲ得可シ

千八百四年第五月十八日ノ法律ノ第三章第五章第六章第八章第九章第十章第十一章ニ記スル所ノ人

皇族、陸軍總督、海軍總督、參議、貴族

議上院下院ノ
議員等ヲ云フ

クウルドカツサシヲシノ上席人及ヒ裁

判役並ニ其裁判所ノプロキュウル、ゼ子

ラル及ヒアボカーゼ子ラルミニステールピブリック

中ノ官吏デパルトマンノ管轄官

幼者ノ住所ノデパルトマンシ外ノ地ニテ

公務ヲ行フ者

第四百二十八條 現ニ服役ニ充ツル兵士及ヒ

佛蘭西國外ニテ皇帝ヨリ任シタル職務ヲ行

フ者モ亦後見ノ職ヲ辭スルヲ得可シ

第四百二十九條 若シ皇帝ヨリ職務ノ任ヲ受

ケタル公正ノ證ナキニ因リ爭論ノ生スル時

ハ後見ノ職ニ任スルヲ辭セント欲スル者

其所屬官局ノ執政ヨリ渡シタル證書ヲ出サ

バレバ後見ノ職ヲ辭スル許シノ言渡ヲ得可

カラス

第四百三十條 前數條ニ記シタル者後見ノ任

ヲ受ルヲ辭シ得可キ公務ニ任シタル後ニ

後見ノ職ニ任スルヲ承諾シタル時ハ後ニ

其公務ヲ述ヘテ後見ノ職ヲ辭スルヲ得ル

第四百三十一條 後見ノ任ヲ受ケ其職ヲ行ヒシ後公務ニ任シタル者其後見ノ職ヲ保有スルヲ欲セサル時ハ其公務ニ任シタル日ヨリ一月内ニ親族會議ヲ為サシメ他ノ後見人ヲ撰マシム可シ。

其者公務ノ任ノ滿チタル後自カラ再ヒ後見ノ職ニ任スルヲ求メ又ハ其者ニ代リ後ニ後見人トナリシ者其職ヲ退ク可キヲ求メタル時ハ親族會議ニテ前ノ後見人ヲ其職ニ復サシムルヲ得可シ。

第四百三十二條 幼者ノ血屬又ハ姻屬ノ親ニ非サル者ハ其幼者ノ住所ヨリ四^一三^リヤメートルノ距離内ニ後見ノ職ヲ行ヒ得可キ血屬及ヒ姻屬ノ親ノアラサル時ノ外強テ之ヲ後見ノ職ニ任スルヲ得可カラス。

第四百三十三條 滿六十五歳以上ノ者ハ後見ノ職ニ任スルヲ辞シ得可シ。○既ニ後見ノ職ニ任シタル者ハ七十歳ニ至リシ時其後見ノ職ヲ退クヲ得可シ。

第四百三十四條 重疾ニ罹ルノ確證アル者ハ

後見ノ職ニ任スルトヲ辞シ得可シ
又既ニ後見ノ職ニ任シタル後重疾ニ罹ル時
ハ其職ヲ退クトヲ得可シ

第四百三十五條 如何ナル人ト雖モ二箇ノ後
見ノ職ニ任シタル時ハ更ニ他ノ後見ノ任ヲ
辞スルトヲ得可シ
夫及ビ父タル者既ニ一箇ノ後見ノ職ニ任シ
タル時ハ更ニ他ノ後見ノ任ヲ受ルニ及バス
但シ已レノ子ノ後見ニ付テハ格別ナリトス
第四百三十六條 五人ノ嫡出ノ子アル者ハ其

子ノ後見ノ外更ニ他ノ後見ノ職ニ任スルト
ヲ辞シ得可シ

皇帝ノ兵籍ニ入り服役ニ充テテ死シタル子
ハ此五人ノ子ノ數中ニ算入スルトヲ得可シ
其他ノ死シタル子ハ現ニ生存スル孫ヲ遺留
シタルニ非サレハ五人ノ數中ニ算入ス可カ
ラス

第四百三十七條 後見ノ職ヲ行フ時間ニ子ノ
出産スルトアリト雖モ之ヲ迷ベテ後見ノ職
ヲ退クトヲ得ズ

第四百三十八條 後見ノ任ヲ受クル者之ヲ任
 スル親族會議ノ席ニ在ル時ハ其席ニ於テ直
 キニ其職ヲ辞スルトヲ述ベ其會議ニテ其評
 議ヲ為ス可シ若シ其席ニ於テ辞スルトナキ
 時ハ其後ニ至リ辞スルトヲ許サス

第四百三十九條 後見ノ任ヲ受クル者之ヲ任
 スル親族會議ノ席ニ在ラサル時ハ其職ヲ辞
 スルトヲ評議セシム可キ為メ特ニ親族會議
 ヲ為サシム可シ
 其安置ハ其職ニ任スル告知ヲ得タル時ヨリ

三日内ニ之ヲ為ス可シ但シ幼者ノ住所ノ地
 ニ居住セサル者ノ為メニハ其住所ト幼者ノ
 住所トノ間其路程三ミリヤメートル毎ニ一
 日ヲ増ス可シ○此等ノ期限ヲ過ル時ハ其辞
 職ノ求メヲ許サス

第四百四十條 親族會議ニテ後見人ノ辞職ヲ
 肯セサル時ハ後見人裁判所ニ訴出テ其辞職
 ノ求メノ允許ヲ請フ可シ然レ其訴訟ノ時間
 ハ假ニ後見ノ職ヲ行フ可シ

第四百四十一條 裁判所ニテ後見ノ職ヲ辞ス

ルヲ允許シタル時ハ其辭職ヲ肯セサル者
訴訟ノ費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可シ
若シ裁判所ニテ其辭職ヲ允許セサル時ハ原
告人訴訟ノ費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可
シ

第七款 後見ノ職ニ任スルヲ能サ
ル事 後見ノ職ニ參セシメサル事
後見ノ職ヲ退カシムル事

第四百四十二條 左ノ數人ハ後見人又ハ親族
會議ノ員中ニ加ハルヲ得ス

第一 父母ヲ除ク外ノ幼者

第二 治産ノ禁ヲ受ケシ者

第三 母及ビ尊屬ノ親ニ非サル女

第四 幼者ノ身分幼者ノ家産又ハ幼者
ノ財産ノ多量ニ付キ自カラ幼者ニ對
シ訴訟ヲ為ス者及ビ其父母幼者ニ對
シ同上ノ訴訟ヲ為ス者

第四百四十三條 施體又ハ加辱ノ刑ニ處セラ
レシ者ハ後見ノ職ニ任スルヲ得ス○既ニ
後見ノ職ニ任シタル者此等ノ刑ニ處セラレ

シ時ハ後見ノ職ヲ退ケラル可シ
第四百四十四條

第一 聞ヘアル不行跡ノ人

第二 後見ノ職ヲ行フニ不適當又ハ不

信實ノ處置ヲ為シタル證アル者

此等ノ者ハ後見ノ職ニ任スルヲ能ハズ又既

ニ後見ノ職ニ任セシ者ハ其職ヲ退ケラル可

シ

第四百四十五條 後見ノ職ニ任スルヲ能ハズ

或ハ後見ノ職ヲ退ケラレタル者ハ親族會議

ノ員中ニ加ハルヲ得ス

第四百四十六條 後見人ヲ退職セシメントス

ル時ハ後見人ノ監察者ノ求メニ應シ又ハ取

下等裁判所ノ裁判役ヨリ公務ヲ以テ集會セ

シメタル親族會議ニテ之ヲ言渡ス可シ

其裁判役幼者ノ從兄弟又ハ更ニ近親ノ血属

又ハ姻族ノ親一人又ハ數人ヨリ親族會議ヲ

集會セシム可キノ求メヲ受ケタル時ハ之ヲ

為サシメサルヲ得ス

第四百四十七條 親族ノ會議ニテ後見人トナ

ル可キ者ヲ其職ニ任セサルト又ハ既ニ任ジタル後見人ヲ退職セシムルトヲ言渡ス書ニハ其言渡ヲ為スノ道理ヲ記ス可シ但シ後見人ノ述ル所ヲ聴キタル後又ハ後見人ヲ呼出シテ猶出席セサル後ニ非レバ其言渡ヲ為ス可カラス

第四百四十八條 後見人親族會議ノ言渡ニ循フタル時ハ其旨ヲ其言渡書ニ附記シ新々ニ任シタル後見人直チニ其職務ヲ行ヒ始ルトヲ得可シ

若シ後見人親族會議ノ言渡ニ循ハサル時ハ後見人ノ監察者親族會議ノ言渡ノ允許ヲ得シト下等裁判所ニ訴出ス可シ但シ其裁判所ノ言渡ニ服セサル者ハ更ニ上等裁判所ニ訴出ルトヲ得可シ又後見人トナル可キ者其職ニ任スルト能ハス又ハ其職ヲ退ケラレシ時ハ其職ヲ得ントスルニ付キ後見人ノ監察者ヲ裁判所ニ呼出ストヲ得可シ

第四百四十九條 親族ノ會議ヲ為サシメント

求メタル血属又ハ姻族ノ親ハ前條ニ記スル所ノ訴訟ニ参スルコトヲ得可シ但シ此訴訟ハ至急ノ吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ吟味シ及ヒ裁判ス可シ

○第八款 後見人ノ職務

第四百五十條 後見人ハ幼者ノ身體ヲ監察シ且民法ニ管スル諸件ニ付キ幼者ニ代ル可シ後見人ハ懇切ニ幼者ノ財産ヲ支配シ且其支配ノ不良ナルニ付キ幼者ノ為メ生シタル損害ヲ擔當ス可シ

後見人ハ幼者ノ財産ヲ買入ルコトヲ得又親族會議ヨリ後見人ノ監察者ヲシテ其後見人ニ別段ノ許ヲ與ヘシム可キコトヲ任シタル時ニ非レハ幼者ノ財産ヲ期限ヲ定メ借入ルコトヲ得又幼者ニ對シ債ヲ討スルノ權又ハ幼者ニ對シ訴訟ヲ為スノ權アル者ヨリ其權ヲ讓リ受ルコトヲ得ス

第四百五十一條 幼者ノ財産ニ封印アル時ハ後見人其任ヲ受ケタルコトヲ相當ノ式ヲ以テ知り得タル日ヨリ十日内ニ其封印ヲ除去ス

可キヲ求メ直チニ「バテイル」ヲシテ其監察者ノ面前ニテ幼者ノ財産ノ目錄ヲ記サシム可シ

又幼者ヨリ後見人ニ償フ可キ物件アル時ハ後見人「バテイル」ノ問札ニ答ヘテ其幼者ヨリ得可キ物件アル旨ヲ述ベ之ヲ幼者ノ財産ノ目錄中ニ記入セシム且之ヲ記入シタル旨ヲ調書ニ記ス可シ若シ後見人此事ヲ為サザル時ハ幼者ヨリ償ヲ得ルヲ得ス

第四百五十二條 後見人ハ幼者ノ財産ノ目錄

ヲ記シ終リシ時ヨリ一月内ニ官吏ヲシテ其監察者ノ面前ニテ幼者ノ動産ヲ糶賣ヲ以テ賣拂ハシム可ク且其糶賣ヲ為スニハ公告又ハ貼附ヲ為シ其由ヲ調書ニ記ス可シ但シ新族會議ニテ品物ノ儘保ヲ置ク可キヲ欲スル財産ハ之ヲ賣拂フ可カラス

第四百五十三條 父母法律ニ循ヒ幼者ノ財産ノ入額ヲ所得ト為シ且之ヲ品物ノ儘ニテ後ニ幼者ニ渡サント欲スル時ハ之ヲ賣拂フニ及ハス

此場合ニ於テハ父母己ノ費用ヲ以テ評價人ニ幼者ノ財産ノ真價ノ算定セシム可シ但シ其評價人ハ後見人ノ監察者ヨリ任ズル所ニシテ最下等裁判所ノ裁判役ノ面前ニテ誓ヲ述フ可シ○父母後ニ品物ノ儘ヲ以テ幼者ニ渡スルヲ得サル動産ハ其價額ヲ幼者ニ渡ス可シ

第四百五十四條 父母ノ後見ヲ除クノ外總テ後見ノ職ヲ行ヒ始メントスル時親族會議ニテ後見人ノ支配スル財産ノ多寡ニ准シ算計

書ヲ以テ幼者ノ毎歳ノ費用及ヒ財産支配ノ費用ノ額ヲ定ム可シ

又其算計書ニ後見人其支配ヲ為スニ付キ給料ヲ與フ可キ輔佐人一員又ハ數員ノ助ケヲ得可キヤ否ヤヲ定ム可シ但シ其輔佐人ノ處置ノ不良ナルトアル時ハ後見人其責ニ任ス可シ

第四百五十五條 親族ノ會議ニテ幼者ノ入額其費用ノ額ヨリ多キト幾許ニ至ル時ハ後見人其金額ヲ幼者ノ資益トナル可キ方法ニ用

ヲ可キヤヲ定ム可シ但シ幼者ノ為メニ其金額ヲ用フルハ六月内ニ之ヲ為ス可シ若シ此定期間ニ之ヲ為サル時ハ後見人其金額ニ付幼者ニ相當ノ息銀ヲ拂フ可シ

第四百五十六條 若シ後見人幼者ノ金額幾許ニ至ル時ハ之ヲ幼者ノ資益ノ為メ用フ可キヤヲ親族會議ニテ定メシメタルトナキ時其後見人前條ニ記シタル定期ニ至リ猶之ヲ用ヒサルニ於テハ金額ノ多少ヲ論セス幼者ノ為メ用ヒサル其總額ノ息銀ヲ幼者ニ拂フ可

シ

第四百五十七條 後見人ハ父母ト雖モ親族會

議ノ許諾ヲ得ルニ非レハ幼者ノ為メニ金額ヲ借受ケ又ハ幼者ノ不動産ヲ他人ニ給與シ

又ハ賣拂ヒ又ハハイポテト為スト得ス其許諾ハ極メテ切要ナル事又ハ明白ナル利

益アルニ非レハ之ヲ為ス可カラス幼者ノ為メニ金額ヲ借受ケント為スニハ後

見人ヨリ簡略ナル算計書ヲ出シ幼者ノ金額動産入額ノ不足ナルトヲ證シタルニ非レハ

親族會議ニテ其許諾ヲ為ス可カラス
 何レノ場合ト雖凡親族會議ニテ如何ナル不
 動産ヲ先ニ賣拂フ可キヤヲ指示シ且之ヲ賣
 拂フニ付キ有益ナリト思量セシ諸件モ亦指
 示ス可シ

第四百五十八條 此事ニ付キ親族會議ニテ為
 シタル決定ハ後見人ヨリ下等裁判所ニ願ヒ
 其允許ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ執行フ可
 カラス但シ下等裁判所ニ於テハ裁判役會議
 ノ室ニテプロキュウル、アンペリアルノ述ル

所ヲ聽キシ後其裁判ヲ為ス可シ

第四百五十九條 其不動産ノ糶賣ヲ為スニハ

其「カント」アルロンガシマニシ中ノ常例
分チタル一部分ノ地

ノ場所ニテ相繼テ三次ノ日曜日ニ糶賣ノ書
 ヲ貼附セシ後下等裁判所ノ裁判役又ハ特ニ
 任ヲ受ケタル「テイル」後見人ノ監察者ノ面
 前ニテ之ヲ為ス可シ

其貼附書ノ各通ハ之ヲ貼附シタル「コンミュ
 ン」ノ「メール」コ「ン」ニ「ユ」ー「ン」ヲ
 支配スル者 檢印ヲ為シテ證ス
 可シ

第四百六十條 幼者ト不動産ヲ共通シテ所有
 スル者ノ願ニ因リ其不動産ヲ糶賣ニ為スコ
 キノ言渡ヲ為シタル時ハ幼者ノ財産賣拂ニ
 ニ付キ第四百五十七條及ヒ第四百五十八條
 ニ記シタル法式ヲ用フルニ及ハス
 此場合ニ於テハ唯前條ニ記スル所ノ體裁ニ
 循ヒ其糶賣ヲ為スノミヲ必用トス但シ此
 糶賣ニハ必ス外人ヲ參セシム可シ
 第四百六十一條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ
 得ルニ非サレハ幼者ノ為メ其遺物相續ヲ為

スノヲ承諾シ又ハ之ヲ拒ムノヲ得ス○後見
 人幼者ノ為メ其遺物相續ヲ為スノヲ承諾シ
 タル時ハ其遺物ノ目錄ヲ記シ其遺物ノ價額
 ニ至ル迄ノ外負債及ヒ費用ヲ償ハサルノ約
 定ヲ以テ幼者ノ為メ之ヲ引受ク可シ
 第四百六十二條 後見人幼者ノ為メ其遺物相
 續ヲ為スノヲ拒ミシ後他ニ其遺物ヲ引受ル
 者ナキ時ハ後見人更ニ親族會議ノ許諾ヲ得
 テ幼者ノ為メ其遺物ヲ引受ルノ又ハ幼者丁
 年ニ至リテ自カラ之ヲ引受ルノヲ得可シ但

シ此場合ニ於テハ其遺物ヲ引受ケタル時ノ景状ヲ以テ其財産ヲ受取ル可ク其以前法ニ適シテ為タル財産賣拂ノ契約又ハ其他ノ契約ニ付キ訴訟ヲ為ス可カラス

第四百六十三條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非レハ人ヨリ幼者ニ與フル贈物ヲ幼者ノ為メ受ク可カラス
幼者ノ受ケタル贈物ハ丁年者ノ受ケタル贈物ト均シク看做ス可シ

第四百六十四條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ

得ルニ非レハ幼者ノ不動産ニ管シタル權ニ付キ訴訟ヲ為ス可ラス又其權ニ付キ他人ヨリ要スル所ヲ承諾ス可カラス

第四百六十五條 後見人幼者ノ他人ト共通スル財産ヲ分派セントスルニハ必ス親族會議ノ許諾ヲ要ム可シ然レ他人ヨリ其幼者ト共通スル財産ヲ分タント要ムル時後見人其答ヲ為スニハ親族會議ノ許諾ヲ必要トセス

第四百六十六條 前條ニ記シタル財産分派ニ付キ後見人幼者ヲシテ丁年者ニ均シキ權ヲ

得セシメントスルニハ遺物相續ヲ為ス地ノ
 下等裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ其財
 産ヲ評價セシメタル後裁判所ニテ其分派ヲ
 為ス可シ
 評價人ハ其裁判所ノ上席人又ハ之ニ代ル可
 キ裁判役ノ面前ニテ正實ニ其職ヲ行フ可キ
 ノ誓詞ヲ述ヘ其後遺物ノ不動産ヲ區分シテ
 其區分シタル地ヲ裁判役又ハ裁判役ヨリ任
 シタルノテイルノ面前ニテ闡引ニ為シ此等
 ノ官吏其地ヲ引渡ス可シ

此方法ヲ用ヒスシテ為シタル分派ハ假ノ處
 置ナリト看做ス可シ

第四百六十七條

後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ

得且下等裁判所ノプロキュウルアンペリア

ルノ撰ミタル法律家三員ノ訓告ヲ得ルニ非

サレハ幼者ニ代リテ和解ヲ為ス可カラス

第
 三
 篇
 第
 十
 五
 卷
 ニ
 詳
 ナ
 リ

又其和解ハ下等裁判所ニテプロキュウルア

ンペリアルノ述ル所ヲ聽キシ後之ヲ允許シ

タルニ非サレハ其効ナカル可シ

第四百六十八條 後見人幼者ノ行狀ニ付キ至重ナル戾意ノ事アル時ハ之ヲ親族會議ニ述ヘ其許諾ヲ得タル上此篇第九卷親ノニ定メタル規則ニ循ヒ幼者ヲ禁錮セント訴ルテ得可シ

○第九款 後見人ノ算計ノ事

第四百六十九條 後見人ハ何者タルヲ問ハス其職ノ終リシ時其執行ヒタル諸件ニ付テノ算計ヲ為ス可シ

第四百七十條 父母ヲ除クノ外總テノ後見人

ハ其職ヲ行フ時間ト雖ヒ親族ノ會議ニテ特ニ預定シタル期限ニ其行ヒシ諸件ニ付テノ算計書ヲ後見人ノ監察者ニ渡ス可シ然レ後見人ハ毎歲其算計書ヲ一通以上出スニ及ハス○此書ハ印税ナキ紙ニ記シ且之ヲ渡スニ裁判ノ式ヲ用フルヲナク又費用ヲ要スルヲナシ

第四百七十一條 後見人ノ最終ノ算計書ハ幼者ノ丁年ニ至リ又ハ後見ヲ免ルニ至リシ時幼者ノ費用ヲ以テ之ヲ記ス可シ但シ其費

用ハ後見人之ヲ前拂ニ為ス可シ

此算計書ニ記シタル費用中確證アリテ幼者

ノ利益トナル可キモノハ後見人ニ償フ可シ

第四百七十二條 後見人ト幼者ノ丁年ニ至リ

シ者トノ間ニ約定ヲ為シタルト雖此其約定

ヲ為ス以前ニ詳細ナル後見人ノ算計書及ヒ

證書類ヲ其妨者ニ渡シ且其約定ヲ為スヨリ

少クトモ十日前ニ幼者ノ其算計書及ヒ證書

類ヲ受取りタル證書アルニ非レハ其約定ノ

効ナカル可シ

第四百七十三條 若シ後見人ノ算計書ノ事ニ

付キ争ノ生ズル時ハ他ノ民法ニ管スル争論

ノ如ク之ヲ訴ハ裁判ヲ受ク可シ

第四百七十四條 後見人ヨリ未タ幼者ニ償ガ

ル殘額アル時ハ別ニ裁判所ニ訴出サスノ算

計書終成ノ時ヨリ其息銀ヲ拂ハシム可シ

幼者ヨリ後見人ニ償フ可キ殘額ハ算計書終

成ノ後其殘額ヲ償フ可キヲ訴出セシ時ヨ

リ其息銀ヲ拂フ可シ

第四百七十五條 後見ノ諸事ニ付キ幼者ヨリ

後見人ニ對シ訴訟ヲ為スルヲ得可キ期限ハ幼者ノ丁年ニ至リシ時ヨリ十年ナリトス

○第三章 幼者ノ後見ヲ免ルノ事

第四百七十六條 幼者ハ婚姻ヲ為スニ因リ其後見ヲ免ル可シ

第四百七十七條 幼者ハ婚姻ヲ為サスト雖モ滿十五歳ノ齡ニ至リシ時ハ其父又父ナキニ於テハ其母ヨリ後見ヲ免ル可キノ許シヲ受ルルヲ得可シ
此ノ如ク幼者ヲシテ後見ヲ免レシメント為

スニハ父又ハ母ヨリ最下等裁判所ノ書記官ノ立會ニテ其裁判所ノ裁判役ニ其旨ヲ述ヘ其裁判役之ヲ聞届クルヲ以テ足レリトス

第四百七十八條 父母ナキ幼者滿十八歳ノ齡

ニ至リシ時親族會議ニテ相當ト思量スルニ於テハ後見ヲ免ル、
一ヲ得可シ
此場合ニ於テハ親族會議ニテ幼者ノ後見ヲ免ル、
一ヲ許可スルノ決定書ヲ記シ且最下等裁判所ノ裁判役親族會議ノ上席人タルニ

付キ其決定書中ニ幼者ハ其後見ヲ免ルト云
ヘル語ヲ書キ加フルヲ以テ其幼者後見ヲ免
ル、トヲ得可シ

第四百七十九條 前條ニ記スル所ノ場合ニ於
テ後見人幼者、後見ヲ免ル可キトヲ求ムル
トナク幼者ノ從兄弟又ハ更ニ近キ血屬及ヒ
姻屬ノ親一人又ハ數人幼者ノ後見ヲ免カル
、トヲ相當ト思量スル時ハ此等ノ者ヨリ此
事ヲ議セシムル為メ親族會議ヲ為リシム可
キトヲ取下等裁判所ノ裁判役ニ求ルトヲ得

可シ但シ其裁判役ハ此求ヲ允許セリルヲ得
ス

第四百八十條 後見人ノ算計書ハ親族會議ニ
テ任シタルヲキテトウルノ立會ニテ後見ヲ免
レタル幼者ニ之ヲ渡ス可シ

第四百八十一條 後見ヲ免レシ幼者ハ家屋及
ヒ土地ヲ九年ニ過キサル時間貸渡スノ證書
ヲ記シ又ハ其家屋土地等ノ入額ヲ受取リテ
其受取書ヲ與ヘ其他總テ財産ヲ支配スル、
ミノ事ヲ為シ得可シ但シ其幼者此等ノ證書

ヲ記シタル後之ヲ取消サント訴出スヲ得可
キ場合ハ丁年者ト同一ナル可シ

第四百八十二條 幼者ハ後見ヲ免ル、ト雖
其^キキュラトール^ルノ立會ナクシテ不動産ニ管シ
タル訴訟ヲ為シ及ヒ不動産ニ付キ他人ノ訴
訟ノ被告トナリ又ハ人ニ貸シタル金額ヲ受
取リテ其受取書ヲ與フルヲ為ス可カラズ
但シ其幼者人ヨリ金額ヲ受取リタル時ハ^キ
ラトール其用方ヲ監察ス可シ

第四百八十三條 幼者ハ後見ヲ免ル、ト雖
凡

金額ヲ借受ケントスルニハ親族會議ニテ之
ヲ許可スルノ決定ヲ得且下等裁判所ニテ^テ
ロ^キキュリウル、アンペルアルノ説ヲ聽キシ後其
親族會議ノ決定ヲ允許スルヲ必要トス

第四百八十四條 幼者ハ後見ヲ免ル、ト雖
未タ後見ヲ免レサル幼者ノ為メ定メタル所
ノ法式ヲ守ラスシテ其不動産ヲ賣拂ヒ又ハ
人ニ給與ス可カラズ又其財産支配ノ為メノ
三ノ外證書ヲ記ス可カラズ
又人ヨリ物ヲ買入レ又ハ其他ノ事ニ付キ此

幼者義務ヲ負タル時其額ノ多キニ過ルニ於テハ之ヲ減ス可シ但シ此事ニ付テハ裁判所ニテ幼者ノ家産及ヒ幼者ト契約シタル者ノ正邪並ニ幼者ノ費用ノ有益又ハ無益ヲ考察シテ其裁判ヲ為ス可シ

第四百八十五條 後見ヲ免レシ幼者他人ヨリ負フタル義務ヲ前條ニ記スル如ク減ス可キノ言渡ヲ受ケタル時ハ後見ヲ免レシ益ヲ失フアル可シ但シ後見ヲ免レタル益ヲ取消サントスルニハ以前後見ヲ免レタル時ト同

一ノ法式ニ循フ可シ

第四百八十六條 後見ヲ免レシ益ヲ失フタル幼者ハ其日ヨリ再ヒ後見ヲ受ケ丁年ニ至ル迄ノ時間常ニ後見人ノ照管ヲ受ケ可シ
第四百八十七條 後見ヲ免レシ幼者商業ヲ為ス時ハ其商業ニ管シタル事ニ付キ之ヲ丁年者ト同視ス可シ

○第十一卷 丁年ノ事、治産ノ禁ノ事、裁判

所ヨリ任スル補佐人ノ事、千八百三年

第三月廿九日決定、第四月八日布告

○第一章 丁年ノ事

第四百八十八條 滿二十一歳ヲ以テ丁年トス

○此齡ニ至ル者ハ婚姻ノ卷ニ記シタル制禁
ヲ除クノ外總テ民法ニ管シタル生理ノ所為
ヲ行フコトヲ得可シ

○第二章 治産ノ禁ノ事

第四百八十九條 常ニ白癡、癩疾

精神錯乱シテ
安靜ナルモノ

ヲ狂疾精神錯乱シテ躁動スルモノヲ云ノ景状アル丁年ノ者

ハ間々平常ニ復スル事アリト雖モ治産ノ禁

ヲ受ク可シ

第四百九十條 親族中ニ於テハ互ニ治産ノ禁

ヲ受ケシムルノ訴訟ヲ為スルヲ得可シ又夫

婦モ互ニ其訴ヲ為スルヲ得可シ

第四百九十一條 狂疾ノ場合ニ於テ夫又ハ婦

或ハ親族ヨリ狂者ヲシテ治産ノ禁ヲ受ケシ

ム可キヲ訴出サ、ル時ハ「プロキウ」ルア

ンペリアルヨリ之ヲ訴フ可ク又白癡癲疾ノ

場合ニ於テハ此官吏ヨリ配偶者又ハ分明ナ

ル親族ノアラサル者ニ對シ此治産ノ禁ヲ受

ケシム可キノ訴ヲ為スルヲ得可シ

第四百九十二條 治産ノ禁ヲ受ケシムルノ訴

ハ下等裁判所ニ於テ之ヲ為ス可シ

第四百九十三條 白癡癲疾、狂疾ノ諸事ハ詳ニ

之ヲ書面ニ記ス可シ○治産ノ禁ヲ受ケシム

可キヲ訴出シタル者ハ證人及ビ證書ヲ出

ス可シ

第四百九十四條 裁判所ヨリ此篇ノ第十卷幼

後見等 第二章第四款 親族ノニ定メタル所ノ

ノ事 法ニ循ヒ集會ヲ為シタル親族會議ニテ治産

ノ禁ノ訴ヲ受ケシ者ノ景状ニ付キ其意ヲ述

フ可キトヲ言渡ス可シ

第四百九十五條 治産ノ禁ヲ受ケシム可キノ

訴訟ヲ為シタル者ハ親族會議ノ列ニ加ハル

可ラス然ル其訴訟ヲ為シタル者之ヲ受ケシ

者ノ配偶者又ハ其子ナル時ハ親族會議ノ列

ニ加ハルトヲ得可ク唯其決議ノ時ニ辯ヲ参

フ可カラス

第四百九十六條 裁判所ニテ親族會議ノ説ヲ

聴タル後裁判役會議ノ室ニ於テ被告人ヲ問

糾ス可シ若シ被告人其室ニ出席ヲ為ストヲ

得サル時ハ裁判役一頁書記官ト俱ニ其家ニ

至リ之ヲ問糾ス可シ但シ何レノ場合ニ於テ

モ¹プロキュリウル、アシペリアルハ問糾ノ場所

ニ立會フ可シ

第四百九十七條 一度問糾ヲ為シタル後裁判

所ニ於テ必要ナリト思量スル時ハ被告人ノ

身體及ヒ財産ヲ監察ス可キ假ノ支配人ヲ任

ス可シ

第四百九十八條 治産ノ禁ノ訴訟ニ付テノ裁判ハ原告被告ノ雙方ヲ呼出タル上又ハ一方ノ者呼出ヲ受ケテ猶出席セサル上公ケニ吟味ヲ為シテ之ヲ言渡ス可シ

第四百九十九條 治産ノ禁ヲ受ケシム可キノ訴訟ヲ裁判所ニテ允許セサル時ト雖モ裁判所ヨリ其時ノ景状ニ随ヒ日後被告人ハ裁判所ノ言渡ニ因リ任シタル補佐人ノ立會アルニ非レハ訴訟ヲ為シ又ハ和解ヲ為シ又ハ金

額ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取リテ其受取書ヲ與ヘ又ハ自己ノ不動産ヲ賣拂ヒ及ヒ附與シ又ハ「イポテック」トナス等ノ事ヲ為ス可カラサル旨ヲ言渡ス可シ

第五百條 下等裁判所ノ言渡ニ服セスシテ更ニ上等ノ裁判所ニ訴出ス可アル時上等裁判所ニテ必要ナリト思量スルニ於テハ其治産ノ禁ノ訴訟ヲ受ケシ者ヲ再ヒ問糺シ又ハ特ニ任タル裁判役ヲシテ其問糺ヲ為サシム可シ

第五百一條 治産ノ禁ヲ受ケシムル言渡書又ハ其補佐人ヲ任スル言渡書ハ原告人ノ求メニ應シ十日間ニ之ヲ寫シ取り其寫ヲ被告人ニ送達シ且之ヲ懸帖ニ記ス可シ但シ其懸帖ハ裁判ノ室及ヒ其裁判所管轄内ニ在ルハテハルノ役所ニ懸ク可シ

第五百二條 治産ノ禁ヲ受ケシムル言渡書又ハ補佐人ヲ任スルノ言渡ハ之ヲ為シタル日ヨリ執行ノ可シ○其言渡ノ後ニ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ記シタル證書又ハ補佐人ノ立會ナ

クシテ記シタル證書ハ皆廢物ナリトス

第五百三條 治産ノ禁ヲ受クル以前ニ記シタル證書ハ之ヲ記シタル時既ニ治産ノ禁ヲ受ク可キノ原由アルヲ明白ナルニ於テハ亦之ヲ廢物ト為スヲ得可シ

第五百四條 人ノ死セサル中ニ治産ノ禁ノ言渡ヲ受ケ又ハ其禁ヲ受ク可キノ訴訟ヲ受ケタル時ニ非レハ其者ノ記シタル證書ヲ其死後ニ至リ精神錯亂ヲ言述ベ廢物ト為サント訴ルヲ得ス但シ其證書上ニ精神錯亂ノ證

ノ分明ナル時ハ格別ナリトス

第五百五條

下等裁判所ヨリ治産ノ禁ヲ受ケ

シムルヲ言渡シタル裁判ニ付キ定期内ニ

更ニ上等裁判所ニ訴へ出スルナキ時又ハ更

ニ上等裁判所ニ訴へ出スト雖其裁判所ニ

テ下等裁判所ノ言渡ヲ可ナリト為タル時ハ

此篇ノ第十卷

幼年後見等ノ事

ニ記スル所ノ規則ニ

循ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者、為ノ後見人及ヒ

後見人ノ監察者ヲ任ス可シ○以前任シタル

假ノ支配人ハ其職ヲ退ク可シ但シ其支配人

後見ノ職ニ任セサル時ハ後見人ニ算計ヲ為ス可シ

第五百六條

夫ハ別ニ願出ルニ及ハスシテ治

産ノ禁ヲ受ケタル婦ノ後見人タル可キノ權

アリ

第五百七條

婦ハ其夫ノ後見ノ職ニ任マル

ヲ得可シ○此場合ニ於テハ親族會議ニテ後

見ノ職ヲ行フニ付テハ規則及ヒ約定ヲ立ツ

可シ但シ其婦親族會議ノ決定不正ナリト思

量スル時ハ之ヲ裁判所ニ訴出スルヲ得可シ

第五百八條 治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ配偶者及
 尊属卑属ノ親ヲ除クノ外ハ何人ヲ論セズ
 其後見ノ職ヲ十年以上ノ時間行フニ及ハス
 トス但シ十年ヲ過ル時ハ其後見人代職ノ者
 ヲ撰ム可トテ請ヒ退職ヲ為スヲ得可シ

第五百九條 治産ノ禁ヲ受ケシ者ハ其身體及
 財産ニ付キ幼者ニ均シクシテ幼者ノ後見
 ノ法則ハ亦之ヲ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ後見
 ニ適當シテ用フ可シ

第五百十條 治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ入額ハ其

養生ノ方ヲ厚クシ且其疾ヲ速ニ平愈セシム
 ルノ用ニ供ス可シ○其病症ト其家産トニ從
 ヒ親族會議ニテ其者ヲ其家ニテ療養セシメ
 又ハ養生所或ハ貧院ニ送ル可キヲ定ム可
 シ

第五百十一條 治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ子婚姻
 ヲナストアル時ハ嫁資ノ事及ヒ子ノ相續ス
 可キ父ノ遺物ノ一部ヲ預メ受取ル事並ニ其
 他婚姻契約ノ諸件ヲ親族會議ニテ定ム可シ
 但シ其定ムル所ハ裁判所ニテテラロキユリウル

アインペリアルノ説ヲ聽タル後之ヲ允許シタルノ言渡ヲ得ルヲ必要トス

第五百十二條 治産ノ禁ヲ受ケシメタル原由ノ終リシ時ハ其禁モ亦終ル可シ但シ其禁ヲ免スノ言渡ハ以前其禁ヲ受ケシメタル時ト同一ノ法式ヲ行フタル後ニ非レバ之ヲ為ス可カラヌ又其禁ヲ受ケシ者ハ其禁ヲ免スノ言渡ヲ得タル後ニ非レバ已レノ權ヲ行フヲ得ス

○第三章 裁判所ヨリ命シタル補佐人

ノ事

第五百十三條 浪費ヲ為ス者ハ裁判所ヨリ任シタル補佐人ノ立會タテカヒヲクシテ訴訟ヲ為シ又

ハ和解ヲ為シ又ハ金額ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取リテ其受取書ヲ與ヘ或ハ自己ノ不動産ヲ附與シ又ハ賣拂ヒ及ビイポテトナス等ノ事ヲ為ス可カラス

第五百十四條 浪費ヲ為ス者補佐人ノ立會ナクシテ事ヲ行フ可カラサルノ禁ハ精神錯亂ノ者ニ治産ノ禁ヲ受ケシム可キヲ訴フル

ノ權アル者ヨリ之ヲ訴出ス^ト得可シ又其
訴ヲ吟味シ且裁判スルノ方法モ治産ノ禁ノ
訴ト同一ナリ

又此禁ヲ免スニ付テモ治産ノ禁ヲ免スト同
一ノ法式ニ循^フ可シ

第五百十五條 治産ノ禁ノ言渡及ヒ補佐人ヲ
任スルノ言渡ハ下等裁判所ニ訴出シタル時
ニ於テモ又ハ更ニ上等ノ裁判所ニ訴出シタ
ル時ニ於テモ皆^ニニス^テール、ビュブリック^ノ説
ヲ聽タル上ニ非レバ之ヲ為ス可カラス

辻士革筆受

佛蘭西 民法三 終

佛蘭西

法律書 民法三

一
大學南校

